

令和2年10月26日

## 令和2年度 IR 実務担当者セッションの開催について（第2報）

主催：大学評価コンソーシアム

共催：九州大学次世代型大学教育開発センター、山形大学

### 1. 開催の主旨

本セッションは、IR や評価など高等教育機関における現状把握・現状分析に携わる実務担当者が集い、事例紹介と議論を通じて評価および IR における実践知の整理と体系化を図ることをねらいとして、大学評価コンソーシアムが平成 26 年度から実施している勉強会「IR 実務担当者連絡会」の一環として計画させていただきました。

今回は、初めてのオンライン開催となりますが、会員の皆様から IR や評価の現場における事例や課題をご報告いただき、当日、オンライン参加いただく皆様がご自身の大学で取り組むためのヒントを得ていただくとともに、IR や評価の知見の共有を図るセッションとして位置づけております。

また、令和元年度からは大学評価コンソーシアムと会員が所属する機関との連携の下、各種イベントを企画・実施しております。初のオンライン開催となる今回は、大学評価コンソーシアム主催、実施のためのプラットフォームを提供いただく九州大学次世代型大学教育開発センター、山形大学共催で実施いたします。

初めてのオンライン開催に伴い、従来の対面方式のような柔軟な運用、参加者との活発な議論などが制約される点は否めませんが、移動のための時間的、予算的制限を受けないというメリットもありますので、多数のご参加をお待ちしております。

### 2. 日時・実施方法

日時： 令和2年11月5日（金） 13:00-16:00

※当初予定の報告件数より多くの申し込みがあったため、前後30分ずつ延長します。

実施方法： Zoom

※参加登録いただいた方に、アクセス情報をメールで連絡させていただきます。

### 3. 対象者

評価や IR（現状把握・現状分析）に興味があり、大学評価や学務、経営企画等に関連する調査等に従事したことがある教職員や、IR に関する実践事例等に興味がある方。

### 4. 定員

90名

### 5. 参加費

徴収しません。

## 6. 注意

- ・録音、録画は固くお断りいたします。
- ・運営スタッフが実施記録用として画面キャプチャ、報告内容を一部録画し、本セッション実施報告用の素材として、個人の判別や内容がわからない程度に加工した上で使用することがあります。
- ・当日の発表資料はオンライン配布とし、令和元年11月3日（水）15:00を目途に大学評価コンソーシアムのホームページにアップロードしますので、適宜、ご確認願います。なお、秘匿性の高い内容については、当日の発表限定となるため、発表内容と異なる場合がございます。予めご了承ください。
- ・当日は、Zoomにアクセスできるネット環境、パソコンを確保のうえ、ご参加願います。

## 7. タイムテーブル

13:00-13:05 ご挨拶・趣旨説明

13:05-13:25 「学習院大学における授業評価アンケートの分析と活用状況の報告」

守 一介（学習院大学 IR オフィス）

概要：IR オフィスでは FD 推進委員会と連携して授業評価アンケートの全学的な視点での分析を行っており、その結果は委員会で報告した後、大学ホームページで公表している。令和元年度は、例年の学生による評価に加えて、各授業の担当教員向けアンケートも実施した。本発表においては、学生と教員のアンケートデータを結合して分析した結果を示しながら、この結果をもとにした学内の FD での活用状況や今後の活用可能性について報告する。

13:25-13:40 「九州大学教員活動進捗・報告システムと researchmap データ連携システムの開発」

松本 馨、戸川 忠嗣（九州大学）

概要：2020年2月に公開された researchmap.V2にあわせて、九州大学では研究者業績DBとのデータ連携システムを開発した。researchmapには様々なDBとの連携機能が実装されており、AI機能によって自動的にデータが整理されることが特長である。学内DBとresearchmapを連携させることで教員の業績データ入力負担が軽減され、学内DBの内容がより正確になることが期待される。一方で、設計思想の異なるDB同士を連携させるには様々な調整や妥協が必要であり、商用のDB利用も含めて、今後の学内DBをどう運用していくか、その方向性の議論が必要になっている。

13:40-13:55 「分権型 IR の導入に向けた環境整備について」

田尻 慎太郎、堀川 靖子（北陸大学）

概要：本発表では Swing (2016) の”Decentralized IR”と北陸大学における分権型 IR の導入について取り上げる。中小規模の大学では Terenzini (1993) のいう3つの知性を揃えた人材を IR 部署に配置することは非常に困難である。人数だけをみても白石・橋本 (2018) の全国調査では、私立大学の IR 組織の FTE は 0.84 に留まる。そこで北陸大学では IR 室と各部署・各学部で役割を分担した「分権型 IR」の導入を目指した。本発表ではその制度設計、システム構成について紹介する。

13:55-14:00 休憩・質問感想記入時間

14：00－14：15 「IRに求められる継続的な改善のための3つの視点～組織均衡論の観点から～」

齋藤 渉（東北学院大学）

概要：前例や慣習が優先し「組織の重さ」に陥りがちな大学組織の中で、IR部署が継続的な改善のための意思決定支援に資するため、組織均衡を図りつつ取り組みを進めてきた実践事例を3つの視点で考察をする。

また、IRが主管となる調査に基づき、学内諸活動への意思決定支援や提言の事例を報告し、参加者の各大学が取り組んでいるIRの役割を議論する契機としたい。

14：15－14：30 「IR担当者のデータ分析プロセスに関する試行調査」

○田中 秀典（宮崎大学）、山本 鉦（九州工業大学）、岡部 康成（帯広畜産大学）、鈴木 達哉（山形大学）、山本 幸一（明治大学）、藤原 宏司（山形大学）

概要：IR担当者の役割の一つは、データ分析を行い、その結果を学内関係者と共有することである。しかし、多くのIR担当者が、「報告すべき事柄を正しく整理・分析できているのか」という悩みを持っていると思われる。全てを報告しようとするれば、その内容も冗長となり報告書を読んでもらえない可能性が高くなる。また、分析のポイントを絞っても「絞ったポイントが正しいのか」自信を持ってないケースも多いと考えられる。そこで、明確なデータリクエストが与えられなかったというシナリオのもと、架空のデータを用意して、複数のIR担当者におけるデータ分析のプロセス（データマネージメント→分析→報告）を調査した。本報告では、その調査結果を紹介する。

14：30－14：50 「日本型IR履修証明プログラムの開講とIR人材育成の観点について」

山本 幸一（明治大学）、鈴木 達哉（山形大学）

概要：報告者らは、山形大学が2020年5月に開講した「IR履修証明プログラム」の副担当講師を務めている。本プログラムでは、米国におけるIR履修証明プログラムをモデルとして、IR担当者に必要な知識・スキルに関する基礎的な要素、特にData ManagementとData Storytellingの分野を重視した。本発表では、第1期における実績を共有し、第2期以降に向けてIR人材の育成について課題を整理したい。

14：50－15：00 休憩・質問感想記入時間

15：00－16：00 質疑応答・総合討論・まとめ

進行：浅野茂（山形大学 学術研究院）

※時間の許す限り、報告者にすべてのご質問に回答をお願いします。

## 8. 申し込み方法

参加希望の方は、大学評価コンソーシアムのウェブサイトより、**10月26日（月）13時から11月2日（月）13時までにお申し込み**下さい。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

（会員でない方は、参加者整理の都合上、大学評価コンソーシアム〔会費無料〕への会員登録を行ってからお申し込みください。個人単位での入会が可能です。）

## 9. 問い合わせ先

山形大学 浅野 茂

asano@cc.yamagata-u.ac.jp

電話 : 023-628-4189